

R 8 アクションプラン

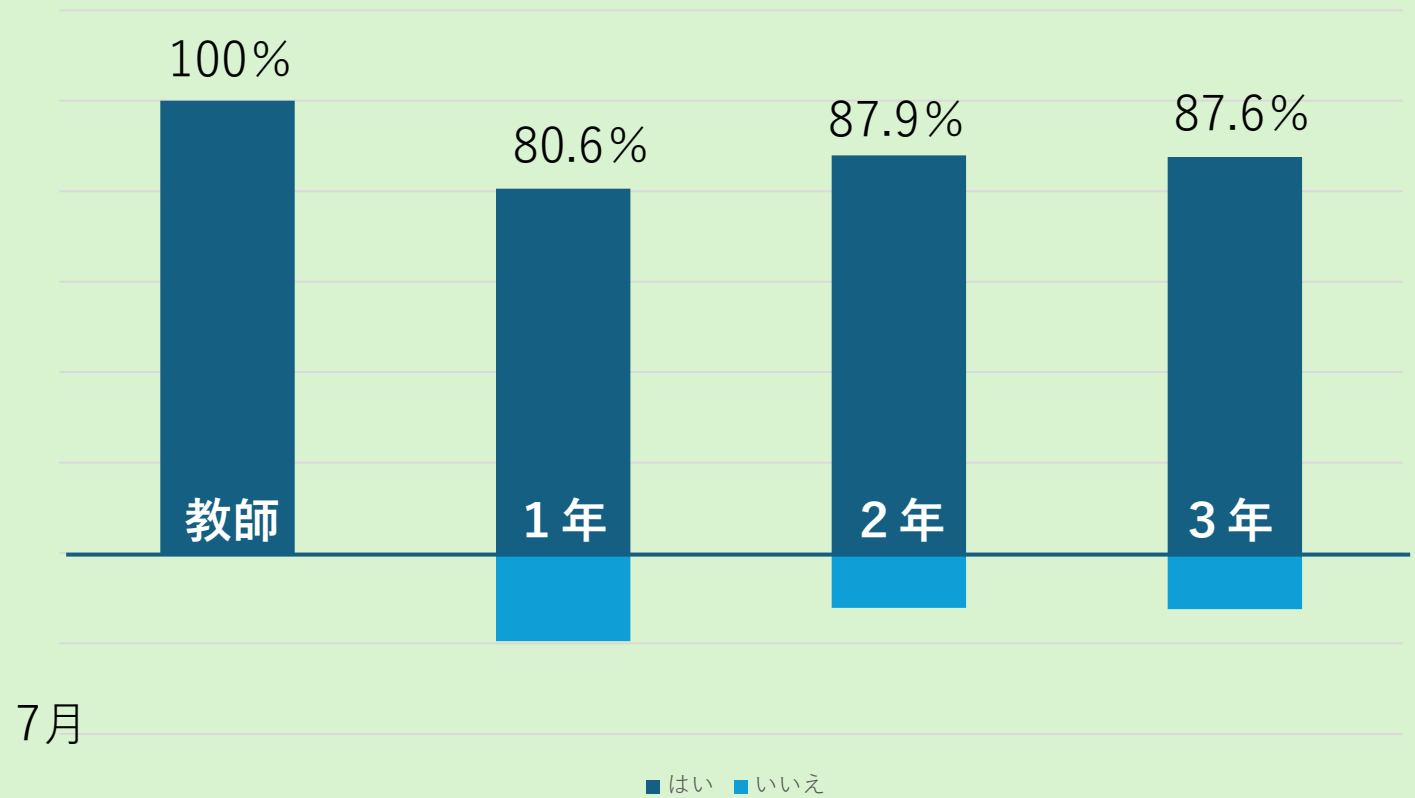
学校生活 5 つの柱 挨拶・清掃・合唱・学習・生徒会

- 相手の目を見て、伝わる声で挨拶ができる生徒(85%)
- 高西式無言清掃に集中して取り組む生徒(85%)
- 心を込めて校歌を歌う生徒(85%)
- 自分の考えを深めることができる生徒(85%)
- 生徒会活動に意欲的に取り組む生徒(85%)

①相手の目を見て、 伝わる声で挨拶ができる生徒(85%)

目を見て挨拶を交わしている

伝わる声で挨拶をしている

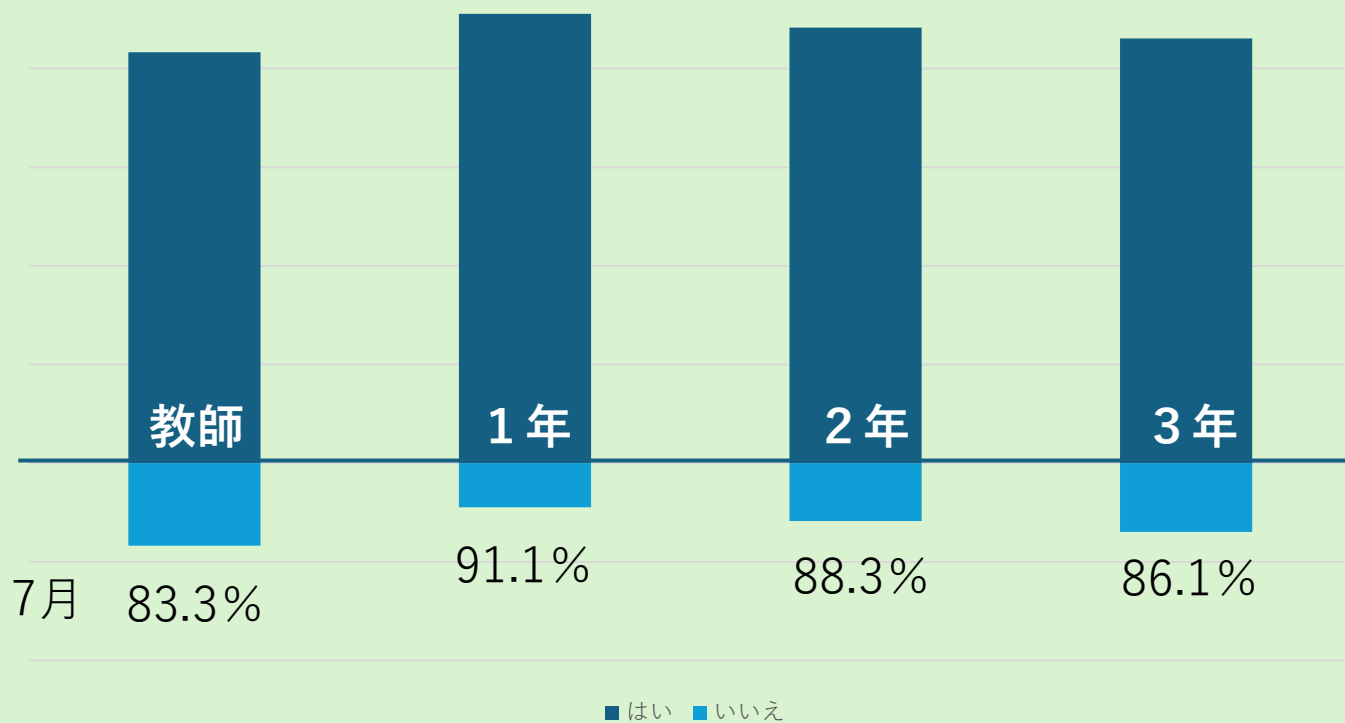


②高西式無言清掃に 集中して取り組むことができる生徒(85%)

無言で清掃をしている

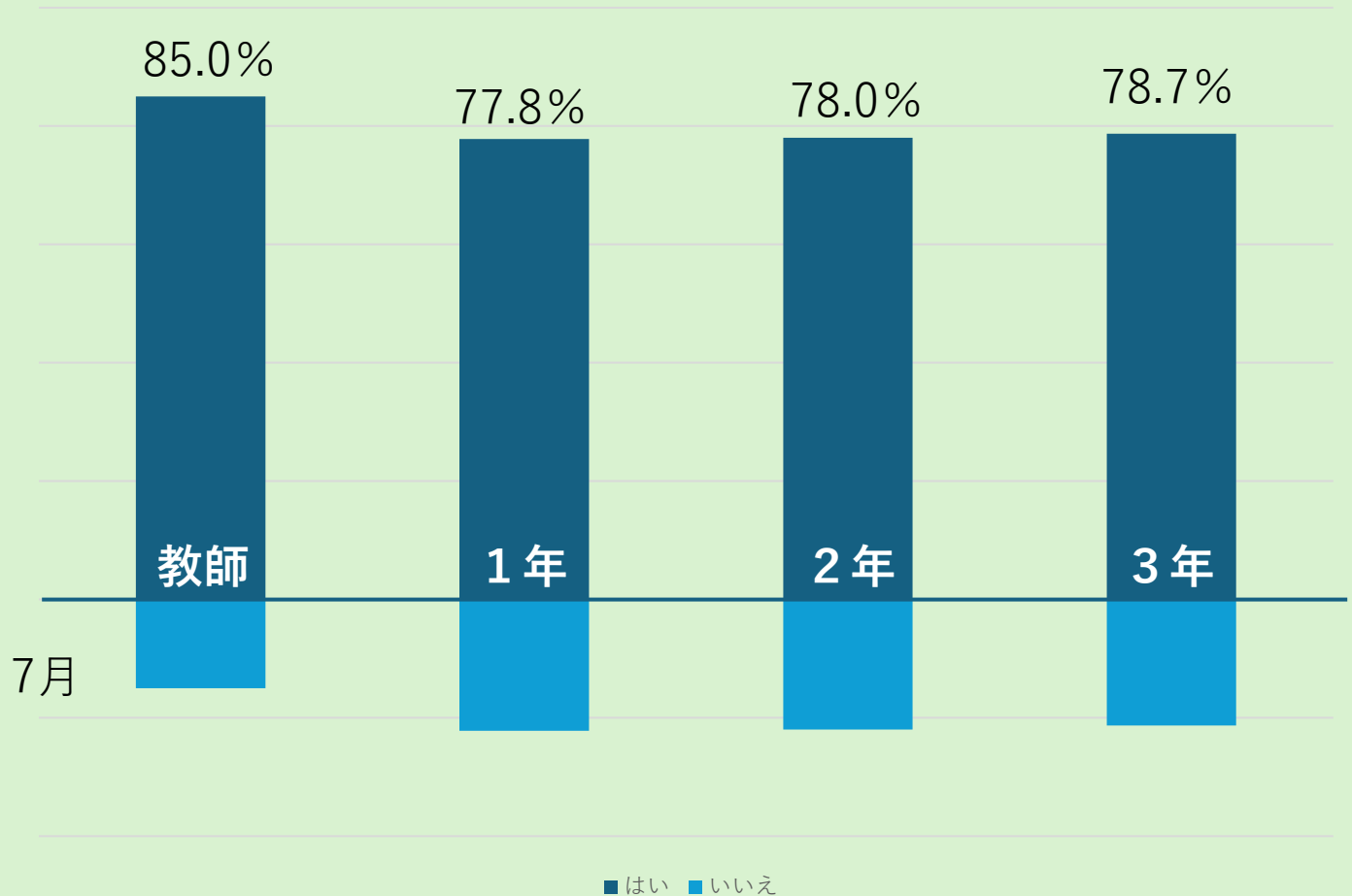
清掃内容を分かっている

清掃に集中している



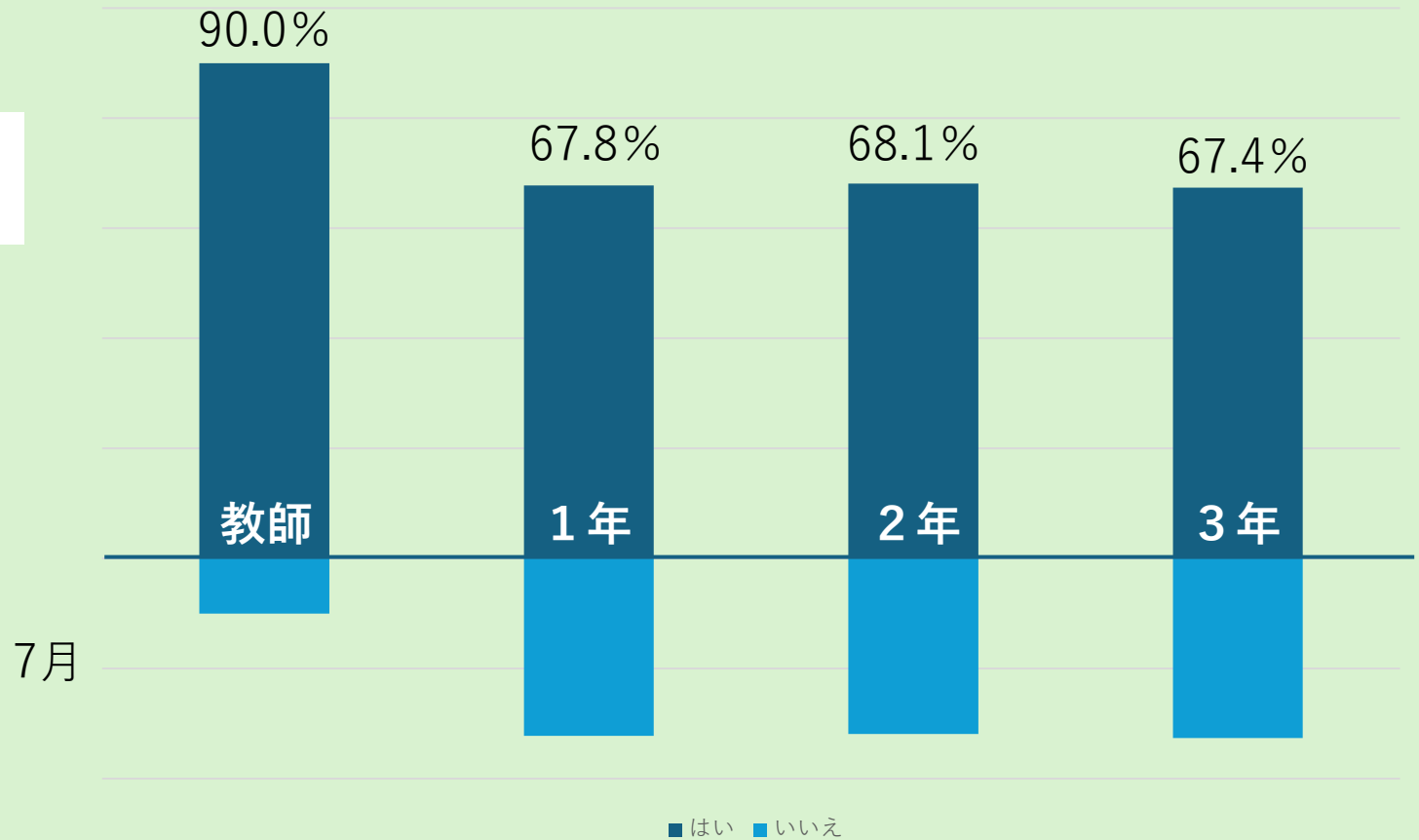
③心を込めて校歌を歌う生徒(85%)

心を込めて校歌を歌っている



④自分の考えをもち、発表できる生徒(85%)

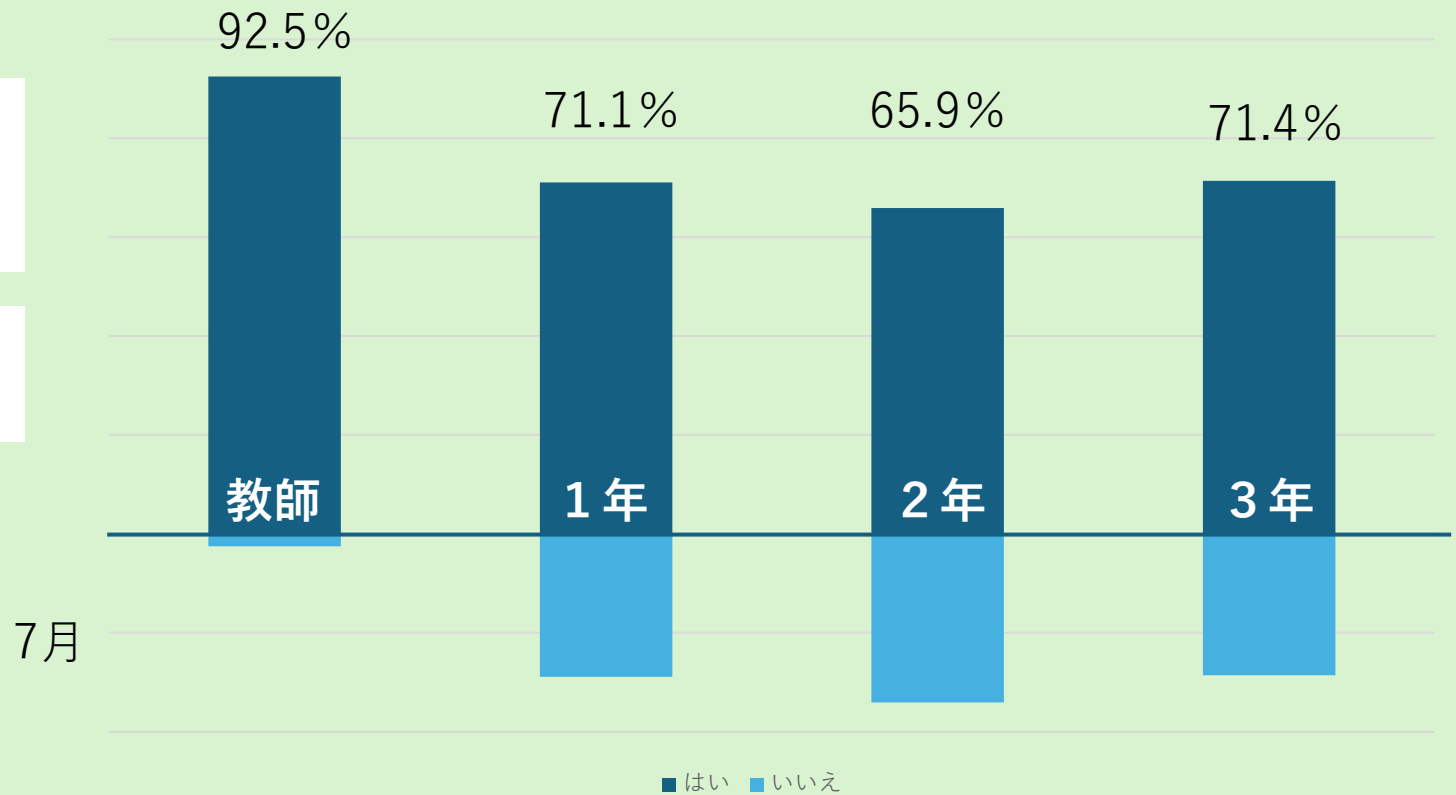
授業では意欲的に考え、自分の意見や考えを深めている



⑤生徒会活動に意欲的に取り組む生徒(85%)

係活動や生徒会活動等では自分で考え、自分の意思や判断で行動している

学級会や生徒会、行事等に意欲的に取り組んでいる



その他 （7月）学校改善アンケート結果より

生徒

【校内生活の実践力】

清掃の理解度（93.7%）や事前準備・挨拶（85%超）は非常に高く、日常の基本的な生活習慣が定着している。

【自己有用感のギャップ】

「学校へ行くのが楽しい（82.6%）」に対して「役に立っていると感じる（52.6%）」は顕著に低い。教職員側は「役に立っていると感じる言葉がけ（95.0%）」を高い意識で行っているが、生徒の受け止めまで届ききっていないギャップがみられる。

【家庭学習と相談】

「家庭学習1時間以上（41.1%）」は全項目中最低であり、保護者の見立て（39.8%）とも一致している。「先生に相談できる（64.4%）」も教職員の認識（誠意ある対応90%）と開きがある。相談しやすい雰囲気づくりと声掛けに努める。

教員・保護者

【学習指示と定着のギャップ】

教員の「家庭学習指示（70.0%）」に対し、生徒の「家庭学習1時間以上」は41.1%にとどまっている。課題を与えるだけでなく、家庭での学習習慣化に向けた具体的な工夫が課題。

【行事・活動への見方の相違】

「生徒が行事に意欲的（95.0%）」と教員が捉えているのに対し、生徒自身の意欲実感（64.1%）は控えめであり、生徒自らが成果を感じられるような工夫が求められる。

【学校対応への評価】

「学校の誠意ある対応（87.9%）」は教員の高い意識（90.0%）と良好に合致している。

【学校と家庭での挨拶・態度の違い】

生徒の校内での挨拶（85%超）に比べ、家庭・地域での「大きな声で挨拶（58.7%）」や手伝い（57.8%）」は低め。内弁慶な面が窺える。

【授業準備・学習習慣の課題共有】

「授業の準備（49.5%）」「家庭学習1時間（39.8%）」は最も低い。学校と家庭が連携して改善に取り組みたい。